

NEWS RELEASE

ため池を活用した太陽光発電による PPA の締結 および アワリーマッチングシステムの実証開始

西日本旅客鉄道株式会社（以下、ＪＲ西日本）は、関西電力株式会社（以下、関西電力）および株式会社新井組と、ため池フロート型太陽光発電設備を新たに設置し、発電された再生可能エネルギー由来電力（以下、再エネ電力）を列車運転用として供給するオフサイトコーポレート PPA（Power Purchase Agreement：電力購入契約）を締結しました。

ため池フロート型太陽光発電の特長は、開発時に森林伐採などが不要であり、ため池への太陽光を遮ることで水の蒸発や藻類繁殖を抑制できるなど、環境を保全しながら発電が可能であることです。また、地域の視点では、ため池の水面貸しにより得られる賃料収入をため池の維持管理費用に充てることができるなど、この取り組みは地域にも貢献できます。

今回の PPA による再エネ電力は、ＪＲ 奈良線の列車運転用電力の一部で使用する予定です。

また、これまでＪＲ西日本と関西電力で締結してきたオフサイトコーポレート PPA から得られるデータを活用し、発電設備からの再エネ電力供給量と列車運転用電力使用量がリアルタイム（１時間単位）で一致していることを証明する「アワリーマッチングシステム」の実証を関西電力が行うことに当社は協力します。この取り組みは、当社の使用電力のうち再エネ電力が占める比率を今後さらに高めていく過程だけでなく、社会全体で再エネを普及させていくための再エネ需給バランスの改善に寄与するものと考えています。

当社は、脱炭素社会の実現に向け、環境長期目標「ＪＲ 西日本グループ ゼロカーボン 2050」を掲げ、グループ全体の CO₂ 排出量を 2030 年度に 50%削減（2013 年度比）、2050 年に「実質ゼロ」とすることをめざしており、再エネ電力の導入は、その目標達成に向けた重要な取り組みの一つです。私たちは脱炭素社会の実現に向け、今後もさらなる取り組みを進めてまいります。

1. 再エネ電力導入規模

発電容量ベース：約 2,250kW 電力量ベース：約 360 万 kWh／年

ＪＲ 奈良線の年間運転用電力量の約 19%相当

本件により、先行して計画している再エネ電力導入量と合わせて、ＪＲ 西日本の在来線全体の運転用電力（年間約 15 億 kWh）の約 11%相当が再エネ電力に置き換わります。

2. CO₂ 排出削減量

供給開始後、約 1,500 t /年※（一般家庭約 580 世帯分）の CO₂ 排出量が削減できます。

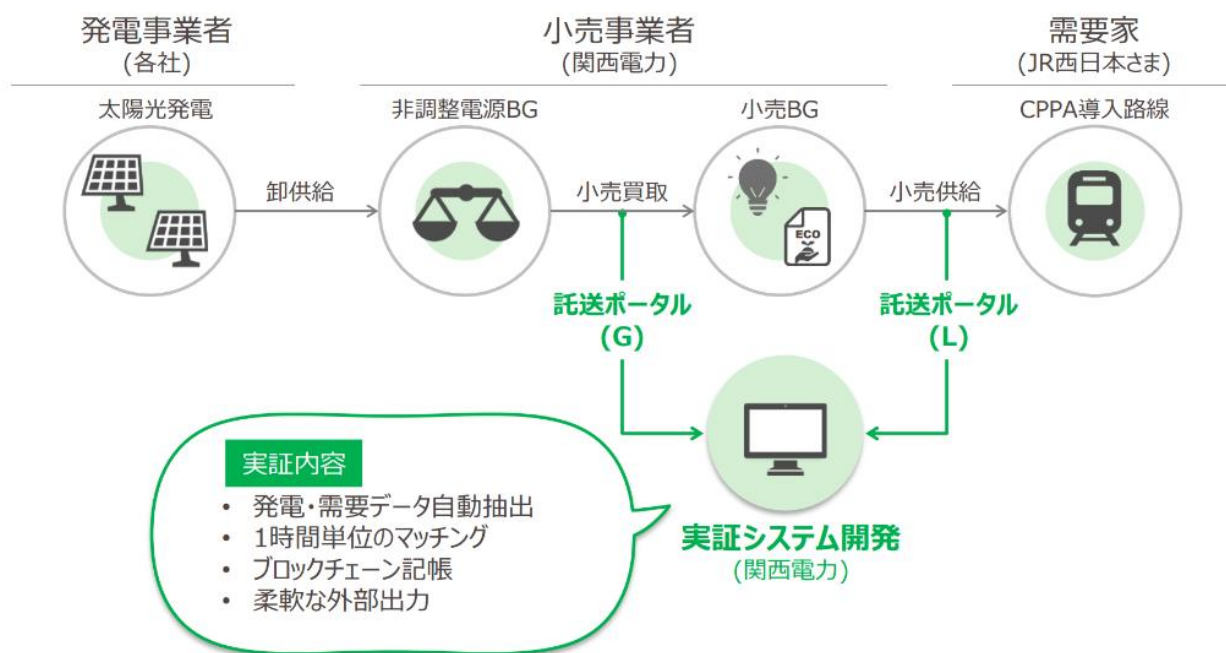
※2023 年度電気事業者別排出係数の全国平均で算出

3. 供給開始時期

2025 年度内に供給開始を予定しています。



本件のオフサイトコーポレート PPA イメージ



アワリーマッチングシステムイメージ

※関西電力提供資料

今回ご案内の取り組みは、SDGs の 17 のゴールのうち、特に 7 番、11 番、13 番および 17 番に貢献するものと考えています。



JR 西日本グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

